

学生が橋梁老朽化対策学ぶ

福井県道路メンテナンス会議 学習会を開催

福井県道路メンテナンス会議は9日、福井大学と福井工業大学、福井高専で建築・土木を学ぶ学生約35人を集め「橋梁の

老朽化対策に関する学習会」を実施した。写真。

福井大学で行われた講義では、近畿地方整備局福井河川国道事務所が道路の老朽化対策について



説明。今後、橋梁をはじめとするインフラの経年劣化が本格化するため、点検の徹底や早期の修繕など、より細やかなメンテナンスが求められると指摘した。また福井県コンクリート診断士会は、県内のコンクリート構造

物の劣化について、アルカリ骨材反応による損傷が生じる地域に該当し、海岸からの飛来塩分も多く、劣化環境が厳しいことなどを紹介した。

その後、永平寺町松岡神明の五松橋に移動し、現場研修も実施。診断士会が高所作業車を用いた打音調査やひび割れ調査

や、電磁誘導法・電磁レーダー法を用いた非破壊試験によるコンクリート構造物中野配筋状態およびかぶりの測定などを行った。シビル調査設計によるインフラ用ロボット「視る・診る」の実演も行われた。